

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
令和8年5月発行 第228号
認定こども園西九州大学附属 三光保育園
TEL:0952-31-6877

☆5月・6月の「フリーデイ」について
保育園の支援センターを開放します。

※事前の予約はいりません

日時: 5月8日(金)・12日(火)

6月5日(金)11日(木)15日(月)29日(月)30日(火)

7月8月9月10月のサロンについて

子育て支援センターの開催場所が変わります!

7月から10月までの4か月間は三光保育園分園 PINO
の2階でサロンを行います。駐車場の数が限られている
ために、予約制になります。サロン予約方法は「さんこ
う・ぽぽら」HPにてQRコードもしくはURLでの申
し込みになります。詳しくはHPをご覧ください。

外遊びで季節を感じる

新しい小さな子ども達が仲間に加わり、泣き声
の大合唱で始まった4月も、終盤には笑顔で過
す時間が増え、給食も少しずつ慣れて食べてく
れるようになりました。この間の保育者は、体力に
余裕なく、“無事に!安全に!笑顔!”を最優先で
仕事に当たっていますが、最近では時折見せてく
れる新入園児さんの笑顔と、進級した園児さんの
ちょっぴりお兄さん、お姉さんになった姿に元氣
をもらっています。

最近ではぽかぽか陽気に誘われて、園庭に出て
外遊びも盛んになっています。まずは、ダンゴム
シ探しのブームも到来です。シロツメグサが生え
ている場所も見つけて、“あった〜♡”と、嬉し
そうに合図を送ってくれます。つつじの花びらを集
めて、色水づくりも始まりました。プランターに
は色々な夏野菜の苗も植え始めています。五感を
フルに使って、この季節の「もの、こと」を体感
してほしいと思います。ぽぽらにお越しの際はそ
んな子ども達の様子をみて頂けると嬉しいです。

(三光保育園長)



☆親子で楽しくじゃがいもほり体験しませんか!

★日時 ①5月19日(火)10:00~12:00 ②5月21日(木)10:00~12:00

内容:じゃがいも掘りの体験(対象:2歳以上)(両日先着10組)

場所:佐賀市金立公民館駐車場(現地集合・現地解散)

持ってくるもの:帽子、手袋(軍手)、シャベル、おしぼり、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったじゃがいもは買い取れますので、小銭と袋を準備して下さい。

☆5月・6月の講座について

6月12日(金)親子で楽しもう!わらべうた講座(先着5組)

☆6月の「子育て支援事業」のお知らせ

6月23日(火)…赤ちゃんの日(ベビーダンス)(先着8組)

6月26日(金)…赤ちゃんの日(ふれあい遊び)(先着8組)

※上記の子育て支援事業は、申し込みが必要です。「さんこう・ぽぽら」HP QRコードまたはURL
から申し込みください。申し込み開始は毎月1日10時からです。

★様々な状況により、計画の変更や
中止がある場合があります。お出か
けの前にホームページで支援事業
の有無をチェックしてください。



☆6月の「1歳の日」「2・3歳の日」

6月2日(水)…2・3歳の日

6月9日(火)…1歳の日

*サロンの時間は10時から12時までです。コーナー遊びや
おやつ・ママカフェタイムがあります。予約はいりません。

「シニアサロンぽぽら」

月に一回、地域の方にお越しいただき楽しいひと時を
過ごしています。おしゃべりやモノづくりを楽しみま
せんか?

5月29日(金)・6月18日(木)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】◎月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】◎9:00~12:30

・園行事の為、ご利用できない場合があります。

・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園

13:30~16:00

※この時間帯のご利用の場合は、電話(31-6877)

での申し込みをお願いいたします。



「テレビ、ビデオ、ケータイ、スマホ、タブレットとの上手な付き合い方」

子ども学科 うえのけいぞう

メディアとの付き合い方で困り感をもっている保護者さんは多いことでしょう。今は、スマホやタブレットとの付き合い方にフォーカスが当たりますが、以前はテレビやビデオでした。わずか25年ぐらい前のことです。逆に言うと、スマホやタブレットの歴史はとても浅いということです。

以前、テレビやビデオとの付き合い方で困っているというお母さんがいらっしやいました。共働きで、夕方帰ってくると子どもたちが待ってましたとばかり抱き着いてくる。お母さんも優しく抱きかかえてあげる。「じゃあ、ちょっと待ってて、お母さん、晩御飯つくるから」と言って、子どもたちにテレビをみせる。子どもたちは、テレビにくぎ付け。すると晩御飯の準備はさくさく進みます。

いざ、晩御飯になったとき、子どもたちはテレビに夢中。「あとちょっと」といってなかなか晩御飯を食べません。お母さんは、少しずつ大声になって「ごはんを食べなさい」と叱ります。続けて、「早くお風呂に入りなさい、早く明日の準備をきなさい、早く寝なさい」と叱り続け。最初は優しい母親だったのに、最後は鬼の形相の母親になってしまっていて困っているという相談でした。

こんなことはどこでもあることです。メディアの制限については、小児科医学会が、30分以内と提言したことがあります。テレビは子どもの脳に刺激が強すぎるのです。映像、音声ともに、保護者の世代が見ていた画面とは大きく性能が良くなっています。大人は大丈夫でも、長時間の視聴は子どもの脳には破壊的なダメージを与えかねないのです。

テレビやビデオは、時間に制限をかければいいのですが、スマホやタブレットはどうしたらいいでしょうか。福岡に「子どもとメディア」というNPOがあります。その先生に質問してみました。「子どもに悪影響があるのはわかるのだけれど、親も使わないわけにもいかない。どうしたらいいでしょうか」と。

すると次の3点を心がけて下さいと言われました。

- ① 子どもの手の届く範囲におかない。
- ② 子どもの前では使わない。子どもたちが寝た後、またはいないときに使う。
- ③ 子どもの前で使うときには、楽しそうにしない。親が楽しそうにしていると、当然、子どもは関心をもつ。

なるほどです。親も使わないわけにはいかないときがあります。だから困ります。ですが、以上の3点であれば、ちょっとした心がけでできるのではないのでしょうか。みなさんもぜひ試してみてください。